

いつわりの平和と真の平和

李元重

奨励者紹介〔リ・うおんじゅん〕

同志社大学キリスト教文化センター准教授

あなたがたの中で、知恵があり分別があるのはだれか。その人は、知恵にふさわしい柔和な行いを、立派な生き方によって示しなさい。しかし、あなたがたは、内心ねたみ深く利己的であるなら、自慢したり、真理に逆らうそをついたりしてはなりません。そのような知恵は、上から出たものではなく、地上のもの、この世のもの、悪魔から出たものです。ねたみや利己心のあるところには、混乱やあらゆる悪い行いがあるからです。上から出た知恵は、何よりもまず、純真で、更に、温和で、優しく、従順なものです。憐れみと良い実に満ちています。偏見はなく、偽善的でもありません。義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです。

（ヤコブの手紙 3 章 13-18 節）

皆さん、こんにちは。つい最近、ノーベル賞の受賞者が発表されました。文学賞は、韓国のハンガンさんが受賞し、平和賞は日本の「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」に与えられました。人類に対する貢献者を懸賞するノーベル賞ですので、それを国ごとにお祝いすることはどうかなとも思いますが、韓国人として日本で働いているわたしのようなものには、今年のノーベル賞が特に意味深いものとして感じられます。

日本被団協の授賞理由について、ノーベル賞委員会は、「核兵器のない世界実現を目指して努力し、核兵器は二度と使われてはならないのだと目撃者の証言から示したこと」と説明しました。今は世界で核兵器を使ってはいけないということが共感されていますが、その認識に当事者としての被爆者の証言が大きな働きがあったでしょう。

日本の団体がノーベル平和賞を受賞しましたが、皆さんは皆さんが生きているこの日本は平和だと思いますか。平和だと思う方は、その理由は何ですか。また平和ではないと思う方はその理由は何ですか。実はわたしの質問には一つの問題があります。一体平和とは何ですか。何を持って平和だ、平和ではないのだと言えるでしょう。

平和学の世界적인權威者のヨハン・ガルトウングは、平和を「暴力の不在」と定義します。その定義から「暴力」とは何かについての議論が展開されます。簡単に自分の理解で説明しますと、「暴力」は、人の潜在的な可能性を奪うことです。戦争は、目に見える最も確実な暴力です。例えば、わたしは韓国人ですので、25年前兵役の義務を果たしました。わたしが軍隊にいる間、もし朝鮮半島で戦争が勃発し、わたしがそこで命を失われたら、今のようにならないうちにわたしが同志社の教員として、チャプレンとして、皆さんの前で話す素敵な働きはできないでしょう。戦争によって、わたしの可能性が無くなったのです。2023 年 10 月ガザ地区の紛争以来、パレスチナ人が 42,000 人以上、イスラエル人は 1,200 以上が死亡しました。43,200 人が幸せに生きる、潜在的な可能性を失ったのです。こうした目に見える直接的な暴力の不在を、Negative Peace「消極的な平和」と言えます。

そうした直接的で目に見える暴力だけではなく、目に見えない間接的な暴力、構造的な暴力もあります。日本社会では、まだ子供の 9 人の一人が相対的な貧困状態にあると言われています。お金がなくて、ちゃんとした教育を受けることができない、不十分な食糧で体の成長が十分できないことによって、その子どもたちは潜在的な可能性を失っています。その

意味で、貧困は間接的な暴力の一つとして考えられます。政治と経済が安定し、社会福祉や雇用などが保障されると、人々の潜在的な可能性が十分実現されます。間接的、構造的な暴力がないからです。こうした状態を Positive Peace「積極的な平和」と言えます。ガルトゥングによると、特に間接的な暴力の多くは、社会正義や公正にかかわっています。言い換えれば、社会的な正義や公正、公平が確立された社会こそ暴力が少なく、平和な社会であるということですね。それこそ、真の平和に違いありません。聖書が教えるシャロームもこのような平和を意味しています。

ウクライナを攻撃したロシアも、戦争の拡大を試みているようなイスラエルも最高の指導者たちは、いつも「平和」を求めると、この戦争は「平和」のための闘いだと宣言しています。戦争によって平和を実現するほどの嘘はありません。抑圧による平和、力のある側のための平和は、偽りの平和に違いありません。一方で、独裁政権、労働者・農民に対する搾取、権力者の腐敗、少数者に対する差別などの正義と公正が不在な社会もあります。明確な戦争や争いがないとしても、その社会の平和も偽りの平和に違いありません。

今学期のチャペル・アワーの共通のテーマは、今日読んでいただいた聖書箇所最後の「義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです」としています。わたしたちは皆平和を望んでおります。イエスは、平和を実現する人々は幸いであると宣言しました。しかし、どうすれば平和を実現することができるのか。そこには、義の実を蒔くことが大切です。でも、この言葉には少し違和感があります。そもそも「実」というものは、収めるものであって蒔くものではありません。「義の実を蒔く」という言葉は少し変に感じられます。しかし、良く考えると「義」、「正義」とは結果として現れるものです。例えば、かつての韓国社会は、長い間軍事独裁政権が続いていました。でもその軍事独裁政権はいつも自由、平等、民主主義などを標榜していました。しかし、その裏には、人権の抑圧、労働運動の弾圧、権力層の不正腐敗などがありました。義のない平和は、いつも偽りの平和になってしまいます。したがって、義のために働き、それで結果として現れた義の実を、更に蒔くときやっと平和の実現につながるのです。

現代社会の大学は、新自由主義の影響なのか、いつの間にか、何が正しいか、何が真理なのかなどの「義」より、何が利益になるのか、何が「得」なのかを求めるようになりました。キリスト教主義大学の同志社で学ぶわたしたちは、「利益」ではなく、「正義」を求めましょう。それによって、平和を実現するものとなりますように、心から願います。